

期末考査まであと4日になりました。進路に関わる大事なテストですから、全力で頑張ってください。インフルエンザも流行り始めていますので、体調管理にも気をつけてください。

また、教科や進路に関する提出物の期限は守れているでしょうか。調査書記載事項希望申請書の締め切りは、明日11月7日になっています。進路希望調査は11月14日です。三者面談の予定は11月11日に配布しますので、必ずおうちの人に渡すようにしてください。

今回はD組の合唱祭の作文を紹介します。



「本当に大切なこと」

3D

私が今回の合唱祭で印象に残っているのは、実際の発表ではなく、それまでに頑張ってきた練習だ。

私は三年間、文化行事委員会に所属している。しかし、三年生になり、歌う曲が難しくなったことで、クラスのみんなをまとめられるか、的確に分かりやすいアドバイスができるか、非常に不安だった。でも、その不安は練習を重ねるたびに自信に変わっていった。

なぜなら、思っていた以上にクラス全員が曲に向かい合い、「3Dらしい合唱にしよう」という思いが、高かったからだ。誰がどんな失敗をしても、責めることなく次に進み、互いに高めあう姿をみていて、この努力が結果として実るといいなあ、という気持ちが強くなっていった。

合唱祭本番、とても良い合唱を発表することができたが、期待していた結果ではなかった。クラスの皆の努力を思うと、本当に悔しかった。

閉会式を終え、体育館から戻ってきた皆の顔を見ると、悲しい表情はひとつも無くて驚いた。そこで私は、何よりも大切なのは結果だけではなく、「D組の頑張った努力の結晶を、ひとつの歌として発表できたかどうか」なんだな、と気が付いた。悔しい思いはしたけれど、そう感じるくらい本気で挑んだことが実感できた。だから、最高の合唱祭になった。

「手は言に証」

D組

正直に言って、音楽を言葉で表すのは難しい。言語化できない魅力の裏には、それだけの“思い”がある。

音楽の先生からそれぞれの曲のポイントが伝えられた。

「“手紙”は二番のサビなど、悩み苦しむけれど不安を乗り越え、自分を信じ、強く生きるという心情を、“伝える言葉の重さ”を意識して歌うことが大切です。」「十五歳の今しか歌えないこの曲を、D組の良さを活かしながら仕上げましょう！」

歌詞の深い意味を考えると、主人公の気持ちの変化や未来と過去の移り変わりなどがわかるようになって、さらに強弱や表情をつけやすくなった。また最初は声が小さく、全体のバランスが悪かったが、自信をもって自分を信じて歌おう！！という声かけによって技量が上がっていった。実行委員や指揮者伴奏者などのアドバイスを元に、一歩ずつ完成へと近づけた。個性あふれる指揮者の熱い思いもあって、団結力が高まっていった。

本番当日、最後のD組の合唱発表が来た。クラスみんなが心をつにして、これまでの練習の成果を全て出し切り、後悔のない素晴らしい合唱となった。一年生の頃から先輩に憧れ、三年間練習してきた「群青」を強い気持ちで心を込めて演奏した。D組で歌った「群青」と「手紙」、どちらも“みんながいるから”仕上げられた合唱だった。全て「当たり前が幸せ」だと改めて知ることができた。

審査発表。舞台上立ち、誰よりも先に審査結果を見た。自分のクラスの文字が見えなかったことに悔いはなかった。D組の「頂点(てっぺん)」をとったからだ。

合唱祭が終わった今、すでに入試へのカウントダウンは始まっている。これから私たちはそれぞれの道へ進み、夢を育てていくのだろう。時には歩いた道を振り返り、見つからない答えを探し、苦労することもあるだろう。だが、人生に全てに意味があるから、悩んだ時間も大切にすることで「今」を生きていく。長い人生の中で中学生は束の間の時間なのかもしれないが、私には変わらない、語り尽くせない思いがある。

歩み出す勇気をくれた赤学年のみんな、“ありがとう”と伝えたい。

